

平成22年度決算報告

平成22年度の大豊町の決算について報告します。皆さんの納めた税金がこの1年間でどのように使われたか、確かめてみましょう。

一般会計 (教育や福祉、道路整備など行政の基本的な会計)

歳入 54億2,147万円
—平成21年度47億5,395万円
対前年度比+6億6,752万円



私たちの生活に置き換えると...

歳出 52億1,460万円
—平成21年度45億1,416万円
対前年度比+7億44万円

町税 6.8% 3億7,110万円	使用料・手数料 財産収入など 7.5% 4億735万円	地方交付税など 49.7% 26億9,241万円	国・県補助金など 26.3% 14億2,721万円	町債 9.7% 5億2,340万円				
☆年収 自分たちで賄えるお金		☆親からの仕送り 全国どこに住んでいても暮らすことができるようにするためのお金		☆借入金 国や銀行からの借入				
人件費 15.2% 7億9,314万円	物件費 11.1% 5億7,977万円	扶助費 4.0% 2億914万円	公債費 16.9% 8億8,119万円	補助費など 9.8% 5億1,279万円	繰出金 9.2% 4億7,718万円	積立金 7.2% 3億7,375万円	建設事業(災害含む)・ 維持修繕費 26.6% 13億8,764万円	次期繰越金
☆食費 (議員報酬や職員給与・手当など)	☆光熱費 (消耗品・光熱水費など)	☆医療費等	☆借入金の返済 (内繰上償還金 1億2,184万円)	☆町内会費 (嶺北広域行政事務組合負担金など)	☆仕送り (特別会計への繰出金 ※後期高齢者医療負担金含む)	☆預貯金 (基金積立)	☆車の購入費・家の修繕費 (道路・給水施設・建物などの整備)	

(平成22年度 地方財政状況調査より)



平成22年度決算に見る台所事情

歳入を見てみると、町税や財産収入など町が独自で確保できた財源は、全体の約15%で、残りは全て国や県からの仕送りと町債(借入金)となっています。

なかでも歳入全体の約50%を占める「地方交付税」は、配分の基準となる人口が減少しているため、今後の増加は期待できず厳しい状況が予想されます。

歳出を見てみると、過去に行った建設事業などの借入金返済である公債費が歳出全体の約17%を占めています。建設事業では、袖子加工施設の新設等により、前年度より約5億円増の約27%となり、補助費等

は、国からの一時的な財政措置として行われた定額給付金事業等がなくなり、約1億円減の約10%となっています。

この結果、町の台所事情は年収の約5.3倍の親からの仕送りで1年間の生活を賄っていることとなります。

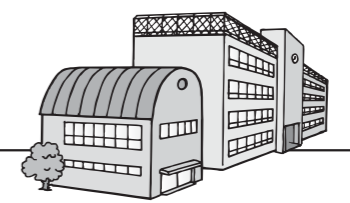


積立基金(町の預貯金等) 残高	
財政調整基金	8億5,811万円
減債基金	5億9,468万円
財政健全化基金	12億1,769万円
福祉基金など	3億314万円
計	29億7,362万円

※定額運用基金や特別会計の基金は含みません。
(平成23年5月31日現在)



平成22年度の主な事業 (21年度からの繰越事業含む)	
大豊町小中学校校舎等 改修耐震補強工事	1億4,036万円
町道改良工事等	2億4,723万円
災害復旧工事	2,352万円
新袖子加工施設建設事業	4億6,639万円



健全化判断比率 (財政の健全度)

健全化判断比率	大豊町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	15.00%	20.00%
連結実質赤字比率	—	20.00%	40.00%
実質公債費比率	12.2%	25.00%	35.00%
将来負担比率	—	350.00%	

- ☞ 一般会計の赤字額の程度を表しています。
- ☞ 全会計の赤字額の程度を表しています。
- ☞ 町が返済した借金の返済率を表しています。
- ☞ 町が将来負担する可能性がある実質的な負債が、どのくらいあるかを表しています。

☆—は、算定の結果「実質赤字がない」ことを表しています。

資金不足率	大豊町	早期健全化基準	財政再生基準
簡易水道事業 特別会計	—	20.00%	

☞ 企業会計の悪化の度合いを表しています。

☆—は、算定の結果「資金不足がない」ことを表しています。

特別会計 (特定の収入でその支出が賄えるもの)

会計名	歳入	歳出	歳入のうち 一般会計からの繰入金
国民健康保険	7億4,979万円	7億3,492万円	6,953万円
簡易水道事業	1億1,597万円	1億574万円	5,397万円
老人保健	87万円	87万円	0円
介護保険	6億9,683万円	6億8,153万円	1億800万円
後期高齢者医療	1億411万円	1億394万円	5,626万円
計	16億6,757万円	16億2,700万円	2億8,776万円

☆特別会計の収入源である保険料や使用料が足りない場合、公益性を維持するために、一般会計から補てんして不足分を賄います。平成22年度は、5会計合わせて約2億8千万円を繰り入れました。

寒い季節になると、体調を崩したり、外出を控える方が多くなり、献血者が減少します

病気やけがで輸血を必要とする患者さんの命を救うため、皆様のご協力をよろしくお願いします